

こまつ食堂コンサルティング部はこちら

作 中山信之

【登場人物】

小松 宗佑	男	こまつ食堂の店主
小松 琴美	女	宗佑の娘
片倉 啓太	男	琴美の恋人
日向 美里	女	琴美の同級生
長堀 柚子	女	琴美の同級生・既婚
川上 修一郎	男	琴美の後輩
山崎 健介	男	宗佑の友人・草野球仲間
山崎 ミズキ	女	健介の妻
恩田 宏和	男	雑誌記者
占い師	女	謎の女性

▽1場

田舎町。というより村。宗佑と娘の琴美が二人で営むこまつ食堂。さびれた佇まい。とある夏の夜、山崎夫妻がテーブルで店主と話している。琴美が客を送り出している。

琴美 ありがとうございます。またごひいきに。

琴美、客を送り出し、食器を片付け始める。

琴美 まーだやってるの？

ミズキ ごめんねなかなか決まらなくて。

健介 まあ、ほら、もうウチら以外ないんだし。

店主 琴、固いこと言うなよ。一応こいつらもお客さんなんだから。

ミズキ あら、一応ってひどいわね。

健介 ホント。

店主 わりいわりい。

琴美 あ、お父さん、鶏肉もう無いって？

店主 そうそう。明日朝イチ追加しといてくれ。

琴美 はーい。あれ？注文書どこだっけ？

琴美奥へ行きかけて

店主 ああ、そこにあるだろ？

琴美 えーっと、これか。で、山崎さん、何もめてるの？

ミズキ ほらほら、琴ちゃんも心配してるし。

健介 今週末の試合の先発は鹿島君か、それとも宗ちゃんか。

琴美 相変わらずアツいなあ。

テーブルでの野球談議は終わらない。琴美は奥へ。

健介 あ、琴ちゃん、ビールもう一杯。

ミズキ 私も。

琴美 はーい。

店主 あんまり飲みすぎんなよ。

健介 平気平気。

ミズキ というわけであなた。

健介 監督と呼びなさい、監督と。

ミズキ 失礼しました。監督。

健介 うむ。何かね？山崎ミズキ助監督。

ミズキ 今度の試合は決して負けられない一戦です。

店主 毎日そんなこといつてねーか。

ミズキ そんなことありませんよ。

店主 そうかなあ。

ミズキ、急に前へ。健介、ミズキのセリフに合わせてマイムを始める。

ミズキ 小松君、いいですか？はい、家に帰りました。あー今日も仕事がんばったなあ。ふう

疲れた。そういえば淡麗生が冷えてたな。くいくいくい。ぶはー。

健介、手に持っていたビールを飲み干す。

ミズキ はい。

琴美、ミズキに新しいジョッキを渡す。

ミズキは受け取ったジョッキを健介に。健介、ちよつと驚くが受け取って飲み干す。

ミズキ ぶはー。(拍手) さてさて。喉も落ち付いたところで、とテレビをつけます。そした

らスポーツ中継やつてるわけです。ほら、オリンピックの予選とかもうじきですしね。

店主 まあな。

ミズキ 「絶対に負けられない戦いがここにある」とかよく言ってるじゃないですか。

店主 ああ。

ミズキ 「今日の試合は、まあ、落としても良いんじゃないですか？」とか聞いたことありま

す？

店主 そりゃねえなあ。

ミズキ 消化試合だなんて思ったらやつてる選手達も、対戦相手も、観てる人も、スポンサー

も、ビール売ってるおねえさんも、誰も幸せにならないんですよ。

健介 どんな試合も大事な試合だと信じて臨むことが大切だってことですね。さすが！

ミズキ そうです監督！わかっていただけましたか。

健介、ミズキ手を取り合って。ちよつと琴美出てくる。

ミズキ 明日という字は明るい日と書くんです。

健介 野球という字は野に球と書くんだぜ。

琴美 なにやっつてんだか。

健介 あ、琴ちゃん、ビールおかわり。

ミズキ 私もー。

琴美 はーい。

ミズキ 勝利の前祝いしないかね。

健介 では、我がブルソックスの勝利と繁栄を祝って！

店主 空だろ。それ。

ミズキ・健介 かんばーい。

店主 今おかわり頼んだとこだろが。

琴美 遅かったか。はい、ビールお待たせしました。

健介の携帯電話が鳴る。

健介 ん……？はい、山崎です……。え？はい……はい。ええ、すぐ行きます。保険証は……財布の中にあります。ええ。今持ってます。はい。厚生病院ですね。わかりました。

健介電話を切る。

ミズキ おばあちゃん？

健介 あ、うん。白鷺館。

店主 どうした。

健介 宗ちゃん、悪い。うちのばあちゃん、急に具合悪くなっちゃったみたいで

琴美 え？

店主 ヤバいのか？

健介 いや、ヤバいって程じゃないみたいんだけど、熱計ったら9度近いらしいんだ。

ミズキ そうなの？

店主 わかった、行こう。

健介 ごめん。俺もう飲んじゃってて車出せなくて。

店主 琴、後頼む。もう閉めちゃっていいから。

店主、車のカギと上着を取りにハケ、すぐ帰って来る。

琴美 あ……うん……わかった。

ミズキ 私も行く。

健介 ああ、大丈夫。それ飲んじゃってから家で待っててよ。

ミズキ

でも、

健介

危篤って訳じゃないから。保険証とお金持って行くだけだよ。

店主

行こう。厚生病院だな。

健介

ごめん。ありがとう。

店主

ミズキさんも気をつけて帰れよ。

ミズキ

あ、うん。

店主、健介ハケる。

オープニングアクト

琴美

心配ですね。

ミズキ

うん。ああ、ごめんね。迷惑かけちゃって。

琴美

そんなこと。

ミズキ

まあ前にもあったし。健ちゃんがああ言ってるってことは大したことないんですよ。

琴美

そうですね。

ミズキ

じゃあこれだけ食べちゃったら帰るね。もったいないし。

琴美

あはは。

ミズキ、残り物を食べ始める。

琴美

あれ？

ミズキ

ん？どうしたの？

琴美

ごめんなさい。ちよつとびっくりしちゃって。

ミズキ

そりゃ驚いちゃうわよねえ。

琴美

違うの。あの、

ミズキ

うん？

琴美

夢で……、夢で見たのと同じだったから。

ミズキ

デジャブってやつ？

琴美

それともちよつと違うような。

ミズキ

予知夢みたいな？

琴美

それは……。うーん、わかんないや。思い出せない。あ、でも何となく……。

ミズキ

それがデジャブね。「記憶が呼び覚まされるような感覚」なんだって。

占い師入ってくる。

ミズキ あーどつかで見たなあって感じにはなるけど、そこから先どうなるのかわかんないのよねえ。

琴美 違うんです。私、ちゃんと夢を見たんです。今急に思いだして。
ミズキ ふーん。

琴美、思いだそうと少し考え込んでいる。ミズキは食事中。

琴美 あ、いらっしやいませ。

占い師 えーっと……？

琴美 あ、ごめんなさい。今日はもうお店閉めちゃうんです。

占い師 あら、

琴美 お父さんが急用で出ちゃって、料理がお出しできなくて。

占い師 そうだったの……あるものだけでもいいから、いただけないかしら。お腹が空いてコンビニで何か買おうにも歩いていける距離じゃなくて。

琴美 ですよね……。わかりました。

占い師 助かります。

ミズキ、食事を終えて。

ミズキ じゃあ外閉めてきちゃうね。

琴美 え？ あ、ありがとうございます。

ミズキ、少し外に出て（すぐ戻って来る）、琴美は厨房へ。占い師は席へ。

占い師 無理言ってごめんなさいね。何だったらできるかしら。

琴美 えーっと、サラダや冷蔵庫にあるおつまみでしたらすぐ。うーん……ちゃんとしたお食事は難しいです。あ、パスタならいけるかな。

占い師 煮物はある？

琴美 ああ、煮物ならあります。

ミズキ、身支度を整えながら。

ミズキ もう料理はいいわよ。私も帰るから。

琴美 あ、はい。

占い師 じゃあ、ビールと枝豆と煮物もらえるかしら？

琴美 わかりました。

ミズキ

お会計お願い。

琴美

はい。今行きます。

琴美、レジに。

ミズキ

片づけ、手伝おうか？

琴美

いえ、大丈夫です。お気持ちだけで。

ミズキ

そう、わかった。ごめんね、宗ちゃん借りちゃって。何かあったら電話してね。

琴美

ありがとうございます。

ミズキハケる。

▽2場

琴美

ありがとうございます。またごひいきに。

占い師

ごめんなさいね。

琴美

いえいえ。もう少しお待ちくださいね。

占い師

どんな夢、見たの？

琴美

え？

占い師

さっき言ってたじゃない。

琴美

あ、そっか。

占い師

私、最近占いみたいなことやってるの。

琴美

みたいな？

占い師

そうそう。真似ごとだけどね。

琴美

へえー。お待たせしました。

占い師

お願い、ちよつと聞かせてくれない？

琴美

夢の話ですか？

占い師

うん。

琴美

いいですけど……えーっと……。ヤマさんちのおばあちゃんが倒れたって電話がかかってきて……。えっと、全然つながりがないんですけど、私が彼とケンカしちゃう夢だったような……。

琴美、食事を運んでくる。

占い師

ボーイフレンド？

琴美

はい。その後は……。うーん……。変な夢見たなあって思った事ははっきり覚えてるんで

すけど。

占い師

夢ってそんなものよね。

琴美

やっぱりちゃんと思いいせません。

占い師

もしかして、その彼と別れようと思ってる？

琴美

え！？何でわかるんですか？あ、いや、まだそこまでの話ではないんですけど。

占い師

ふふふ。でもあなた、彼のこと好きなのね。

琴美

えっと……はい……。

占い師

青春ねえ。

琴美

そんなに若くないですって。あ、でも、こないだ、彼とちよつとあったからかなあと

思うんですけど。

占い師

現実で？

琴美

はい。

片倉、入ってくる。場面変わる。

片倉

あ、琴美。

琴美

どうしたの？難しい顔して。

片倉

うん。

琴美

ん？啓ちゃん？

片倉

あのさ。

琴美

うん。

片倉

今度の秋さ、俺、転勤することになりそうなんだ。

琴美

え？転勤？

片倉

うん。ごめん。

琴美

……もつと……遠くなっちゃうんだね。

片倉

どうして？

琴美

啓ちゃんがこんな言いづらそうにしているんだもん。

片倉

そっか。

琴美

どこのの？

片倉

……島根県。

琴美

島根！

片倉ストップ。場面変わる。

占い師

島根？島根って……どこだっけ？何県？

琴美

山陰地方の、鳥取県の隣です。

占い師 ああ、日本の都道府県で四七番目に有名な、あの。
琴美 なんですかそれ？

占い師 11月は人口の99%が神様っていうあの。会社とかあるんだー。主な産業は神社、
江角マキコ、えーつとえーつと……。

琴美 悪意がすごいですね。

占い師 ほら、年金をアレしてその分島根県に。ほら。ね。

琴美 古っ！って、島根に恨みでもあるんですか？

占い師 ないわよ。ないない。でも鳥取の方がまだ有名よねえ。

琴美 ……かもしれないけど。

占い師 で？で？

場面戻る。

片倉 で、その……お願いっていうか、相談っていうか。

琴美 うん？

片倉 今よりもさらに遠くなっちゃうじゃん？東京からでも5時間3万円。

琴美 5時間！そっか……。

片倉 だからさ、

琴美 だから？

片倉 あの……、俺と一緒に行ってくれない？

琴美 え？一緒に？

場面は食堂に戻り、片倉ハケる。

占い師 やだ、甘酸っぱいわー。おばさん、こういう青春ドラマに弱いものよー。大好物。

琴美 おばさんって……。まだお若いじゃないですか。

占い師 ふふふ。ありがとう。

琴美 でも、すごいです。どうしてわかったんですか？私が……その、考えてること。

占い師、琴美の顔をのぞき込んで

占い師 ふふふ。彼のが好きなのに別れなきやいけないって顔に書いてあるわ

琴美 そんなこと、

占い師 どうして一緒に行こうって思わなかったの？島根だから？島根県唯一の希望、錦織圭
が変な苗字だから？ニシコリって。あはは。

琴美 いい加減に島根から離れてください。そもそもこのあたりも十分に田舎ですし。

占い師

あら、ごめんなさい。

琴美

……。

占い師

なるほど、ご両親のことね。……お父さんの方かな？

琴美

え？え？そんなこともわかるんですか？

場面は変わり、日向、長堀がいる。

日向

え？え？それ、プロポーズじゃん！

長堀

マジで？

琴美

美里、声が大きいわ。興奮しすぎ。

長堀

琴は何て返事したの？

琴美

考えさせてって。

日向

なにそれー！彼いいじゃん！付き合ってた何年だっけ？

琴美

4年とちよつと……かな？

長堀

良き頃合いじゃないの。啓太君が横浜に行ってから？

琴美

もうじき2年かな。

長堀

ふむ。断る理由がないじゃない。琴だって遠距離さみしいって言ってたじゃない。

琴美

まあ、ね。

日向

あれ？あんた啓太君以外に誰かいたっけ？いい人。

琴美

いないよ。何言ってるの。

長堀

おじさんが反対してるとか？

琴美

うーん……反対は、してない、かな。

長堀

ふむふむ。なんだか引掛かるお返事すなあ。

日向

おじさんには何て言ったの？

琴美

まだ、ちゃんと話、してないの。

長堀

そうなの？

琴美

でも、この話が出る前にそれとなくそんな話したことあったんだ。

日向

いつ？

琴美

もう結構前だよ。

長堀

ふむふむ。

琴美

それとなく、それとなくね、「私ね、むかーしむかし、横浜とか、東京とか、遠くで働こうかなとかって考えてみようかなあみたいなの、そしたらなんていうの、アレ、お嫁さんのヤツに行っちゃうかもいれないし、お、お父さん……どう思う？」って。

長堀

それとなく下手かよ！つか、出だしで桃流れてくるかと思ったわ。

琴美 だいたいそんなニュアンスで話したってことよ。

日向 そしたら？

琴美 いいんじゃないねえ？って。

日向 え？

長堀 あっさり。

琴美 私もきつと反対されるって思ってたから驚いちゃって、「お店どうするの？」って聞いたら、「こんな小さな店、一人でなんとかなるわ」って。

日向 ほほー。

琴美 でも……お父さん、お店やめちゃうかもって。

日向、長堀、フリーズ。場面は食堂に戻る。

占い師 お父さんの所は再現シーンにならないのね。

琴美 え？

占い師 (ボソツと) さっきまでいけてたのに。島根県民の恨みかしら？

琴美 ウチのお父さん、シャイなんです。

占い師 そうよね。でも見たいなーやってほしいなー。照明さん、すみません急に。お願いできます？はい。こっちの電気ちよこつとつけるだけでいいですから。

カウンター奥、照明がつく。

占い師 ありがとう。(琴美に) ほら。

琴美 え、ああ、ちよつと待ってください。

場面変わり店主出て来る。

店主 こんな小さな店、一人でなんとかなるわ。

琴美 だつて。

店主 お前が学校出るまでは俺が一人でやってたんだ。なに心配してんだ。

琴美 うん。

店主 ……実はな……ちよつと考えてたんだよ。そろそろ潮時かなって。

琴美 え？

店主 実際、この店はもう苦しい。わかってただろ？村の子供は大きくなったらみんな都会に出てっちまう。住んでる人は減るばかりで当然客も増えねえ。いつまで続けられるかなって話さ。こんなぼろい店どうにかする金もねえしな。

琴美

お父さん……。

店主

琴がいたら店たためねえなって困ってたくらいだ。ちょうどいいじゃねえか。辛気くさい顔してんじゃねえよ。

琴美

ごめん。ってそれは気が早いよ。「いつか」の話だってば。

店主

あのな、親に気いつかってねえで街に出ろ。こっちは俺が何とかする。そんでな……ちゃんと惚れた男るところに嫁に行け。行ける時に行つとかねえと後悔するぞ。

琴美

うん……

店主

こんな中途半端な田舎に縛られることあない。お前はもつと広い世界を見た方がいい。

琴美

……。

店主

年とるのはあつという間だぞ。

琴美、返事ができないでいる。間。

店主

そりゃ色々寂しいけどよ。そんなくらいの覚悟は昔っからしてる。

琴美

え？何？

店主

なんでもねえ。

場面変わり店主ハケるが日向、長堀は止まったまま。

占い師

ありがとう。

日向、長堀フリーズ解除。

日向

いいなあ。うらやましい。行けばいいじゃん。

長堀

美里が家を出たと言って言った時は大反対されてたもんね。

琴美

そういえばそうだったね。

日向

アタシなら絶対彼氏のとこ行く。あーホント、懂れるわー。

長堀

島根だけだな。

日向

島根って何県？

琴美

美里、ごめん。

日向

ああ、気にしないで大丈夫だって。アタシ全然諦めてないから。タイミング待ってるだけ。貯金もしてるし、いつかこんなとこ出てって都会に住んでやるんだ。

琴美

そっか。

長堀

島根だけだな。

日向

そうは言っても、ここよりは都会でしょ。

長堀

島根に都会はねえ！

琴美 もうそれ、いいから。

日向・長堀 え？

琴美 なんでもないなんでもない。

長堀 父を残して彼と島根に行くか。彼と遠距離しながらここに残るか。はたまたきつぱり別れるか。

日向 遠距離きついなあ。

長堀 島根は遠すぎるよねえ。

場面変わり日向、長堀ハケる。

▽3場

占い師 行けばいいじゃない。横浜でも島根でも。

琴美 ですよね。友達もそう言います。でも、

占い師 でも？

琴美 やつぱりお父さん一人になっちゃうのが心配で。あ、ウチ、お母さんいないんです。

占い師 そうなの。

琴美 今さら親孝行とか、そんなじゃないですけど。

占い師 いいお父さんなのね。

琴美 はい。……正直言うと、私がいなくなった後にお店が無くなっちゃうかもしれないって思ったら急にさみしくなっちゃって。

占い師メガネをわたす。

占い師 これ、かけてみて。

琴美 え？メガネですか？

占い師 はい。

琴美 なんです？

占い師 これ、私が占いに使ってるメガネなの。

琴美 占い？

占い師 みたいな事してるって言ったでしょ。

琴美 ああ。

占い師 そんなに心配しなくていいじゃない。メガネかけて死んだ人はいないわよ。きっと。ほら、かけてかけて。

琴美いぶかしみながらメガネをかける。

琴美 普通のメガネですね。

占い師 それ、魔法のメガネよ。

琴美 あはは。うそだあ。

占い師 自分がどつちに進むべきか悩んだ時に後悔しない道を示してくれるの。

琴美 ……ホントですか？

占い師 使い方は、いい？自分の名前を言ってから、悩んでる事を言うのよ。あ、キーワードだけでいいわ。一つずつね。

琴美 ふーん。

占い師 お名前は？

琴美 あ、小松 琴美です。

占い師 じゃあ「小松 琴美、お父さん」。次に、「小松 琴美、ボーイフレンド」こんな感じ。やってみて。

琴美 お父さんとか、名前じゃなくていいんですか？

占い師 ふふ、大体でいいのよ。

琴美 そうですか……。小松 琴美、お父さん。

照明が赤くなる。

琴美 え？え？え？何これ？サングラスになった。

照明戻る。

占い師 ふふふ。何色だった？

琴美 赤かったです。急に赤く見えました。これどうなってるんですか？

占い師 じゃあボーイフレンドの方もやってみて。

琴美 えつと……。じゃあ、小松 琴美、啓太君。

照明青くなる。

琴美 今度は青くなった。

占い師 あら、そう。

照明戻る。

琴美 あ、元に戻っちゃった。

琴美、メガネを返す。

占い師 お父さんの時には赤、ボーイフレンドの時には青だったのね。

琴美 はい。

占い師 じゃあきつとボーイフレンドを選んだ方がいいと思うわ。

琴美 どうして？青いからですか？

占い師 そう。青く見えた方にきつと幸せがあるわよって示してくれるの。

琴美 でも……。

占い師 余計悩ませちゃったかしら。

琴美 いえ、そんなことないです。

占い師 いいのよ。これはただの占いだから。自分で決めればそれでいいの。でもね、どちら

が良いか迷った時に占いに頼りたくなる時ってあるでしょう？

琴美 まあ、そうですね。あります。

占い師 私そろそろ行かなきゃ。おいくら？

琴美 えーっと、千円になります。

占い師 ごちそうさま……大事なことは自分で決めるのよ。でも、どうしても迷った時には、

こういうのも悪くないでしょ？

琴美 ええ、まあ……。そうかもしれないですね。

占い師ハケる。

琴美 ありがとうございます。またごひいきに。

店主入って来る。

店主 ただいま。

琴美 あ、おかえり。

店主 悪かったな。店、大丈夫だったか？

琴美 ミズキさんはお父さん達が出てって、ちよつとしてから帰ったよ。

店主 そうか。悪いことしたな。家まで送って行っても良かったか。

琴美 その後お客さんが一人きて、

店主 客、来たのか？

琴美 うん。ちょうど今帰ったところ。すれ違わなかった？

店主 気付かなかったなあ。

琴美 この辺の人じゃないみたい。観光に来たのかな。

店主

ふーん。

琴美

あ、ヤマさんちのおばあちゃん、大丈夫だった？

店主

ああ、医者も風邪じゃないかって。でもまあ年寄りのことだし、救急じゃアレだ、ちゃんと検査もできないらしくって入院することになった。

琴美

え？そうなの？

ゆっくりと暗転する中、店主と琴美が話している。

店主

まあ大丈夫だろ。

琴美

ヤマさん、大変だね。

▽4場

季節が変わり、秋。店の外。夕方。日向、長堀、川上の3人がいる。

川上

え？こまつ食堂、潰れちゃうんすか？

日向

言い方、あんた言い方気をつけなさいよ。

川上

それで俺、呼ばれたのかなあ。なーんだ……。で、なんで潰れちゃうんです？

長堀

色々あるのよ。

川上

儲かってないんすか？

日向

川上君、あんたは言葉を選びなさい。ね。

川上

すみません。でも、確かに儲かってなさそうっすよね、いてっ！

長堀

あんた、さては隠しごとができないタイプだね。

日向

思ったこと全部口にしちゃうだけでしょう？

長堀

あー。

日向

仕事何してるんだっけ？

川上

先輩、それ前も聞きましたよね……。今はフリーでウェブ作ってます。

日向

フリーでウェブ？

長堀

ウェブページ、ホームページよ。

日向

なるほど。人とあんまり話さない仕事ってことね。ってあれ？アンタ、商店街の活性化がどうか、ほら。街の方でそんな仕事してるって聞いたんだけど。

川上

だと思いましたよ。

長堀

あの子が頑張ってるの、川上君の力で助けてあげてくれないかなあ。

川上

まあ、別に……。アレですけど。

長堀

どれなんだよ。

日向

はつきりしないヤツだね。

川上 僕が出る幕無くないっすか？
長堀 無くない。

日向 あの子、彼氏にプロポーズされたのを断ってまで、
川上 え？マジっすか！？

日向 う、うん。
川上 いつ？

長堀 今年の春か夏くらいだったかね。
川上 小松先輩、踏んだり蹴ったりっすね。

日向 ウソがつけないのとはともかく、言葉に気を使いなさいよ。なんというか、オブラート
に包むというか、

川上 正直、いいじゃないっすか。
長堀 花さか爺さんか。

川上 は？花さか爺さん？
長堀 知らないの？正直爺さんとウソツキ爺さんの壮絶な戦いを描いた日本初のバトル漫

画よ。
川上 いえ、知ってますよ。え？漫画？

紙芝居を持った黒子が出てきて長堀のセリフに合わせてページをめくる。

長堀 ここ掘れワンワンと鳴くうす気味の悪い犬という犠牲を払うも、最後にはまんまと殿
様のご機嫌を取る事に成功した正直者がお金持ちになるといって我が国伝統の、
川上 わかりましたわかりました。とにかく入りましょうよ。小松先輩に話聞かないと始ま
らないっすよ。

日向 おお、ありがとう。
長堀 一方、ウソツキ爺さんは、

川上 花さか爺さんも大丈夫っす。

黒子、困っている。

川上 あんたも帰っていいから。さ、行きましょ。

黒子ハケる。
店に入ろうとする川上を日向が止める。

日向 ちよっと待ちなさい。
川上 はい？

日向 琴から言いだすまで変な話しないでよ？
川上 えー…：あ、はい。努力します。

山崎夫妻と恩田入ってくる。

健介 あれ？どうしたの？

長堀 あ、こんにちは。

ミズキ こんにちは。

健介 日向工務店さんとこの美里ちゃんか。

恩田 はじめまして。恩田と申します。

日向 恩田さん？

ミズキ 雑誌の記者さんよ。

日向 え？すごい。

恩田 いやいや、そう言うところとちよつとかっこいいですけど、いわゆる地元のコミュニティ誌ですから。

ミズキ エス・スタイル桜ヶ丘、知らない？

川上 俺、聞いたことあります。

恩田 読んだことが、じゃないんだ。

川上 あ、すみません。

恩田 いいんです。いいんです。

ミズキ この子、私の学生時代からの友達でね。いきつけのおいしい店があるって言ったらは非って。

川上 取材ですか？

恩田 プライベートですよ。許可も頂いてないですし。でも、あわよくばってところ。

健介 「隠れた名店ぶらり旅」

ミズキ そうそう。

日向 私もそれ知ってます！会社の先輩に聞いたアレだ。

長堀 ああ。

日向 うん。そこで取り上げられたお店が次々と流行ってるって。

恩田 ありがたいことです。

日向 取材するお店ってどうやって決めてるんですか？

恩田 結局は内輪で最近行った店とか、取材に行った先で聞いてくるとか。色々です。

長堀 それが流行っちゃうんですねえ。

恩田 企画自体はウチの編集長が元々どっかのFMラジオでやってたらしくって、そのまんまですよ。TTPってヤツです。

川上 TTP?

恩田 (T) 徹底(T)的に(P)パクる。あは、こういうとカッコよくないです？
で、どうしたの？君達は？

日向 あ、そうでしたそうでした。

川上 実は、店舗の財務状況が芳しくなくて存続が、いてっ！

日向 今の話聞いた後になんなんですか、

健介 うん？

日向 琴んどこ、こまつ食堂、やめることになりそうだって。

恩田 え？そうなの？

日向 ええ、お客さんもなかなか入らないみたいで。

ミズキ そう。

健介 俺たちは良く使わせてもらってるけどなあ。

ミズキ でもまあ確かに貸し切り状態の日がほとんどよね。

健介 まあ、なあ。

ミズキ とにかく入りましょう。外じゃ何だし。

健介 おう、そうだそうだ。

日向 はい。

▽5場

6人、店の中に入る。

琴美

いらっしやいませ。あら。

店主

おう。どうした、珍しい組み合わせだな。

ミズキ

ええ、そこで一緒になったんです。

琴美

美里達は私が呼んだの。(山崎夫妻に)今お冷お持ちしますね。

健介、ミズキはテーブルに。日向、長堀、川上で別のテーブルに。

恩田はカウンターへ。

恩田

はじめまして。エス・スタイル桜ヶ丘の恩田と申します。

店主

ん？

恩田

こういった地元の方に読んでいただく雑誌を作っております。

店主

はあ。

恩田

よろしかったら「隠れた名店ぶらり旅」というコーナーでこまつ食堂さんをご紹介さ

せていただけませんか？

店主 ああ、そういうことか。とくに隠れてもねえけどな。
すみません。

恩田 別にかまわねえよ。
ありがとうございます。

恩田、健介達のテーブルに。

琴美 お待たせしました。お決まりですか？

健介 瓶ビールと、いつもの煮物と、えーつと、ほか何かあるか？

ミズキ また飲むの？。

健介 いいじゃねえか。

恩田 おすすめは何ですか？

琴美 そうですね……街から来た人らは山菜御膳なんか良く頼まれます。
恩田 じゃあそれを。

琴美 ありがとうございます。山菜1、瓶ビールと煮物。

店主 あいよ。

琴美 こっちは？食事にする？

長堀 いや、ジュースもらおうかな。

川上 僕、お昼まだなんで、生姜焼きください。

琴美 はい。お父さん、生姜一丁。

店主 あいよ。

店主奥へ。

琴美 柚子と美里は適当に冷蔵庫から出してね。

長堀 はいはい。

日向 どうしよう。話しづらいな。

琴美 ごめんね。ちょっとだけ待っててくれる？ビールと煮物だけ出してくるね。

日向 うん。

少し時間が経った。山崎夫妻はお酒を飲んでいる。恩田、川上も食事を終えている。
いつの間にか皆の話題は一つに。

長堀 やっぱり今年いっぱいってことですか？

店主 ああ、やれてそれ位だと思う。それくらいがキリが良いかなって。もう少し早めても
いいんだけどな。

健介　なんだよ、水臭いな、もっと早く教えてくれよ。
店主　すまんすまん。でもな、

ん？

店主　この村じゃもう満足に客商売していくってのは難しいんだよ。

ミズキ　過疎地だしねえ。

店主　俺が「店やめようと思ってる」って言っても困らせるだけだろ？

川上　移転するってのは考えなかったんですか？

店主　考えなかったなあ。金もかかるし、実は、今年に入ってからにはちよつとばかり借金して続けてんだ。

琴美　お父さん。

店主　ん？

琴美　ごめんね、私が友達に言ったの。

店主　別に構わねえよ。黙っててもいつか伝わる。

琴美　あのね、お父さん……。

店主　どうした？

琴美　私、まだ諦めたくないの。

店主　琴。

琴美　もっとお客さんに入ってもらえたら借金だって返して、お父さんも私もお店続けられるんでしょう？だったら、やれるだけの事したいの。

そりゃそうだけだなあ……。

僕も、今諦めるべきではないと思います。

私もそう思う。

日向　ありがとうございます、二人とも。私やっぱりお店がなくなっちゃうのはイヤ。さみしい。

アツイねえ。

琴美　川上君はどう思う？

川上　もちろん、リスクはありますが、やれそうな事は沢山ありそうに思います。

健介　でも、そんな簡単に繁盛させられるもんかね。

琴美　難しいかもしれないけど、私の精一杯をやってみたいんです。

健介　どうやって？

日向　もっと宣伝するとか？

ミズキ　宣伝するって言ったって。

琴美、少し困って川上を見る。

川上　ぼ、僕ですか？。

琴美 川上君、そういうの専門で勉強してたでしょ？
川上 でも、そうは言ってもプロってわけじゃないですし。
健介 そういうの？宣伝の？
琴美 経営コンサルタント。
長堀 響きはカッコいいねえ。
川上 結局まだ半分親のスネかじってます。
日向 フリーでウエブね。
琴美 週一アドバイスしに来るだけでも良いから助けてくれるとうれしいな。
川上 それくらいなら、まあ……。地元の活性化に繋がることですし……。
琴美 ありがとうございます！

川上の手を握って喜ぶ琴美。

川上 せ、先輩！
琴美 お父さん、私に……私達にやらせてくれない？
店主 あ、ああ……。
琴美 せめてお父さんが決めた今年いっぱいでも。
店主 ……。
琴美 お問い合わせ！
日向 私からもお願いします。お手伝いに来ますんで！
長堀 お問い合わせ。
川上 お問い合わせ。

店主、ちよつと考え込んで。

店主 でもよ……。
ミズキ 心配？
店主 そりゃな。
健介 お店が心配なの？それとも琴ちゃんが心配？
琴美 私は大丈夫。お願い。
店主 わかったわかった。お前の好きにやってみろ。
琴美 ありがとう。
日向・長堀 ありがとうございます！

日向、長堀、琴美手を取り合って喜びながらその輪に川上を入れる。
恩田、山崎夫妻はほほえましそうに。

健介 宗ちゃんカッコいいぜ。
店主 うるせえ。

琴美たち向きなおって。

川上 では、さつそくですが、本題に戻りましょう。
琴美 うん。

日向・長堀 了解。

川上 えー、まず、新規開業した飲食店の2年以内廃業率は50%とされています。
健介 え？ホントに？

ミズキ まあ、居酒屋なんてあつちこつちにできては消えている気がするわね。

川上 どうしてだと思います？

長堀 お客様が来ないから？

川上 ちゃんとお店の経営をしてないからです。

健介 経営？

川上 例えば値段設定なんかが適当なことが多いです。一般的に原価率は30%〜50%程度が良いとも言われますが、原価いくらの材料がいくらで販売できるのか。廃棄される食材はどれくらいか。仕入れ先を選定したり食材の組み合わせを変えたり。根拠を持って値段を決めているお店は少ないと思います。

健介 ふーん。宗ちゃん聞いてるか？

店主 半分寝ながらな。

川上 例えば、この生姜焼き定食の値段ってどうやって決めましたか？

店主 うーん、他の店じゃ大体これくらいかなって。

川上 そういう決め方もアリだと思います。市場を調査して競合店の価格を参考にします。ですが、他にも考え方の軸はあります。例えばラーメン屋さんなんかで良く行われている手法ではいわゆる「お手頃価格」のそっけないラーメンを競合店より安く出し、券売機が一番目立つ所にはチャーシューメンなんかを配置されます。なるほど。

健介 安い価格で競争しつつも客単価は上げたいですからね。

川上 すごい。

琴美 あ、女性が好むような品目は少し下に配置されている事も多いですね。

健介 男より背が低いからか。

皆、琴美を見る。

琴美

何ですか？

健介

いや、なんでもない。

川上

このように、値段を決めること一つとっても色々考えるべき事はあるんです。

ミズキ

でも、そもそもお客さんがいないんじゃないわよねえ。

川上

そうですね……そもそも飲食店は立地が命ですから、人口流出によってどんどんパイが小さくなっているこの街では徐々に苦しくなるのは逃れられないかもしれないかもしれません……。

恩田

それなら別の収入源を作りだすしかないですね。

川上

ああ。

恩田

ごめんなさい。割り込んで。

川上

あ、いえ。僕もついしゃべりすぎちゃいました。

恩田

取材に行った先でも良く、食事はすごくおいしかったのにしばらくしたら閉店しちゃうところもあったりして。最近は、食事以外の収入源として地域の特産品をインターネットで売ったりしてるお店も増えてますね。

ミズキ

買うのかね。そんなもの。

恩田

集客の工夫としては、割引券をつけたり、ポイントカード作ったり。

健介

都会じゃそうかもしれないけど、割引してるからってこんな田舎まで飯食いにくるヤツはいねえだろ。

川上

ちよっと、時間ください。色々考えてみます。

琴美

ありがとうございます。

川上

いや、はい、えっと。

店主

お前ら、ありがとうな。

川上

いえ、まだ何もしてないですから。明日の夜、お店終わる位の時間にまた来ます。

▽6場

場面は変わり、別の日。琴美、川上、日向、長堀がいる。

琴美

いつもありがとう。ごめんね。

日向

こっちが押し掛けるんだから。

琴美

柚子、旦那さん平気だった？

長堀

なんも。手伝えなくて悪いなって言ってた位よ。

琴美

ほんとに助かるわ。

日向

お店は良いの？

琴美

うん。5時半までは大丈夫。

長堀

休憩？

川上 15時から18時の間は来客数も極端に少ないので、お店を閉めることを提案したんです。

日向 そういうことか。

琴美 光熱費の節約だけじゃなくて、別の仕事ができるようになって。

長堀 賢いねえ。

日向 で、今日の仕事って？

琴美 ほら、これ、ノボリを作るの。

長堀 ノボリ？って旗？何の？

琴美 主に地元の方と、都会から観光に来る方がウチのお客さんでしょう？それに合わせた食事を出そうかと思つて。

日向 なるほどねえ。

琴美 ほら、そろそろサクランボの季節だから。これ。

長堀 サクランボづくしデザート。地元アユの塩焼き。

川上 観光客は大抵山のサクランボ狩りか、その川に遊びに来るのがほとんどですから。

長堀 ここに来ればお目当てじゃなかった方の料理も楽しめるってわけね。

日向 すごいねー。なんだかいける気がしてきた。

長堀 じゃあ作るか！

琴美・日向 おー！

場面は変わり、また別の日。健介、ミズキ、琴美がいる。

健介 これで全部？

琴美 えーっと、後1つあります。

琴美、箱をミズキに渡す。

ミズキ はい。

ミズキ、受け取った箱を健介に渡す。健介が車に積むようだ。

健介 へい。

琴美 ありがとうございます。私が行っても良かったんですけど。

健介 なんの。今日くらい琴ちゃんはゆっくりしててよ。

ミズキ 駅前だっけ？

琴美 はい。住所はそこに。

健介 こまつ食堂に頑張ってもらわないと試合終わった後に打ち上げするところなくなつ

ちやうからね。

ミズキ

それにしても良く考えるものよねえ。

健介

うんうん。

琴美

色々外注しちゃってますから、利幅はかなり小さいんです。

健介

それでもすごいよ。特別なディナーをご自宅にお届けしますって。なかなか思いつかないって。

琴美

あまり遠くまで出せないんですけどね。

ミズキ

市内限定でも記念日なんかみんな色々あるんだからさ、そこそこ期待できるんじゃないの？

琴美

だといいんですけど。

健介

食器は店のだろ？ シェフがついてくるともっと良いかもな。

琴美

でも、ご飯食べてる隣の部屋にウチのお父さんがいたらちよつと不気味じゃないですか？

健介

そうか。

健介・ミズキ

あははは。

琴美

あ、でも良いですね。その場で料理した方が絶対おいしいですし、スケジュールさえ調整できれば……お父さんの不気味さはともかく。あと衣装がいるなあ。

ミズキ

ともかくって。

三人

あはは。

場面は変わり、さらに別の日。店主、川上、ミズキ、恩田がいる。

恩田

お嬢さんたち、頑張ってるみたいですね。

店主

ああ、毎晩集まっちゃあ遅くまでやってるよ。なあ。

川上

あ、ええ。

ミズキ

宗ちゃんは？

店主

俺は口出さねえ事にしてんだ。いちいち言ったらやりづれえだろ。

ミズキ

それもそれで大変ねえ。

店主

大変なことはねえけどな。で、どうした？

恩田

実は今度、地域を支える若い力ってコンセプトで特集を組ませてもらえることになって。

ミズキ

で、琴美ちゃん達を取材させてほしいんだって。

川上

本当ですか！？

店主

そうか、そいつはありがたえ話だな。

ミズキ

もっと喜ばなさいよ。

恩田 僕が勝手に応援したくなっちゃっただけなんで。

川上 ありがとうございます！

店主 喜んでるって。

恩田 ウチごときじゃ絶大な広告効果があるってほどでもないですよ。

川上 いや、インターネットからの流入数は見込めると思ってます。最近始めたサービスで……。

恩田、川上打ち合わせを始める。店主、ミズキ少し離れて。

ミズキ 琴ちゃんの人柄ね。

店主 ああ、そうかもな。

ミズキ 頑張ってるね。

店主 俺はこいつらに任せてるだけだ。難しいこたあわからん。

ミズキ 山崎家あげて応援してるわよ。

店主 ん、ああ……人の心配して家業に響かせんなよ。

ミズキ 大丈夫よ。

店主 その……助かってる。

ミズキ 私達は宗ちゃんの、かな。ふふふ。

店主 なんの話だよ。気持ち悪いな。

ミズキ 人柄？

店主 うるせえ。

店主、照れながら奥へ。

ミズキ どこ行くの？

店主 仕込みがまだ残ってたんだよ。お前らも適当に帰れよ。

ミズキ はいはい。

場面は変わり、さらに別の日。片倉と琴美が電話している。

片倉 ネットで見たよ。すごいなあ。

琴美 ありがとう。

片倉 どれも評判良かったよ。琴美にそんな才能があったとはね。

琴美 みんなに助けてもらってるだけだよ。

片倉 謙遜しちゃって。琴美も作ってるの？

琴美 え？何を？

片倉

料理。

琴美

うーん、ちよっと手伝う位かな。私より啓ちゃんの方が料理上手じゃない。

片倉

俺はお腹一杯飯を食うのが幸せってだけ。

琴美

謙遜しちゃって。どう？そっち慣れた？

片倉

なんとか。通勤はこっちの方が楽だし。

琴美

そうなんだ。

片倉

満員電車よりはね。車で15分。あ、琴美は徒歩0分だよな。

琴美

まあねえ。

片倉

いいなあ。

琴美

職場で寝起きしてるとも言う。

片倉

あー、そう言われると少し嫌だね。

琴美

でしょ？

琴美・片倉

あはは。

しばし間。

片倉

……さみしいな。

琴美

……うん。

片倉

琴美は平気そうだよ。

琴美

そんな事ないって。私だって会いたいよ。

片倉

そうなんだ。

琴美

信じてないやつ。

片倉

そんなことないって。

少し間があって。

琴美

ね、啓ちゃん、占いて信じる？

片倉

占い？

琴美

うん。

片倉

どうだろ？まあ信じない方かな。血液型とか星座とか、人間がそんな単純に分けられ

片倉

るような気がしないよ。

琴美

そっか、あ、そうだよ。啓ちゃんって科学の子だったもんね。

片倉

アトムかよ。

琴美

あはは。

片倉

占いがどうかしたの？

琴美

……ううん。

片倉 変なの。何かあった？
琴美 ううん。なんとなく気になっただけ。
片倉 ふーん……。

間

琴美 啓ちゃんが横浜にいる時から遠距離だったしね。
片倉 もうじき2年か。
琴美 うん。
片倉 一部屋空いてるよお。いつでも引越してきてくれていいんだぜえ。
琴美 ウチも一部屋空いてるよお。いつでも引越してきていいんだぜえ。
片倉 そしたらおじさん超驚きそう。
琴美 それはまあ。
片倉 あはは。

場面は変わり、さらに別の日。健介と日向が入って来る。

健介 こんにちは。
日向 こんにちは。
琴美 あ、ヤマさん、すみません。こんな時間まで。
健介 宗ちゃんは？ もう寝ちゃった？
琴美 はい。ちよっと前まで待ってたんですけど。
健介 ああ、遅くなつてごめんね。
琴美 いえいえ、お疲れ様でした。ビールでも飲みます？
健介 いいねえ！……つて、車だつてば。
琴美 あ、そつか。そうですよね。美里は？
日向 まだ仕事中ですから。
琴美 じゃあ……お冷2丁ね。ごめん。

琴美、奥へ。

日向 いいニュースと悪いニュースどつちから聞きたい？
琴美 なにそれ。じゃあ悪いニュースから。
日向 今日の営業先は……ことごとくダメ。どこの施設にも給食業者がくらいついでる。
琴美 そうだよねえ……。そうかあ、じゃあいいニュースは？
日向 山崎さんのおかげで、

琴美 お？ということは？

琴美、コップを持って戻って来る。

健介 白鷺館の昼ごはん、いけそうだよ。

琴美 ホントですか！？

日向 うん。見積もり持って説明に来てくれっ

琴美 すごい！ホントにヤマさんのおかげです。

健介 でも、毎日は大変だろ？作るのも、届けるのも。

日向 食堂って午前中は結構ヒマなんです。

健介 俺も配達のついでがあつたら持つてってやるよ。

琴美 ありがとうございます。

健介 いいってことよ。

琴美 はりきって献立考えなきゃ。

日向 そうだね。

琴美 白鷺館には明日連絡して、伺える日を調整しますね。

日向 大体の予算と要望は聞いてきたから。

健介 美里ちゃんも板についてきたねえ。

日向 えへ。

琴美 そうなんです。この子がパートに来てくれてから大助かりで。

日向 なによ気持ち悪い。

琴美 本当だってば。

日向 オヤジの手伝いばかりで気が滅入ったところ。こちらこそ感謝してるよ。

健介 二人とも頑張ってるな。うちの婆さんも応援してるよ。小松さんちは命の恩人だって。

琴美 それは大げさですよ。

ゆっくりと暗転。

▽7場

季節が過ぎ、冬。閉店時間。琴美は店の片づけをしている。店主、厨房から出てくる。

店主 琴、もう上がるぞ。

琴美 はーい。お疲れ様。

店主 注文書ここ置いとくぞ。足りないのあつたら足しといてくれ。

琴美 あ、うん。

店主 レジは閉めたからな。
琴美 ありがとう。

店主、玄関まで行き、帰って来る。琴美は片づけを終え、テーブルで書類を見始める。

琴美 ふむ。今月は何とか。
店主 先風呂入るぞ。
琴美 うん。

店主 (行きかけて) あ、さっきの電話、ヤマ、日向んちの子と後で寄るってさ。注文書、一緒に渡しちやってくれよ。
琴美 え、何て言ってた？

店主 ああ、飯食って遅くなるけど、回収した食器、届けるって。後、打ち合わせだとか何とか。
琴美 あ、そっか。了解。

店主 鍵開けてあるからな。
店主 わかった。お父さん、明日頑張るね。
店主 楽勝だよ。コックの真似だろ？

琴美 真似って。
店主 学校でさんざん練習させられたよ。っていつても30年前だけだな。
琴美 わー……。

店主 正月になると車の前にお飾り付けてた時代だ。
琴美 なにそれ？……って、そんな昔の事、覚えてるの？

店主 そんなもん、基本は一緒だ。うまいものを食いたいヤツに約束通り一番うまいもの食わせる。それだけだ。

琴美 料理の説明もするんだよ。
店主 あれは料理人の仕事じゃねえ。
琴美 まあ、そうだけだよ。人件費削減だよ。

店主 こちらご注文いただきましたカレーライスで御座います。シェフが自ら選りすぐった13種のスパイスを使用し、3日間寝かせることで味わいに深みを出したお品で御座います。中辛口ながらもまるやかさも感じられる味わいで、ご飯も粒立ちのいいササニシキを使用いたしました。ぜひ温かいうちにお楽しみくださいませ。
琴美 おー！！カレーは届けないけど。

拍手。

店主 本番は坊主が書いた原稿覚えるだけだろ。任せとけ。

琴美　ごめんね、無理させて。
店主　いや、結構楽しんでるぜ。
琴美　ならよかった。あ、あれ？
店主　どした？
琴美　……デジャブ。
店主　ん？なんだそれ？
琴美　夢で見た気がするの。
店主　ああ。
琴美　やだな。なんか変な感じ。
店主　らしくねえな。どうってことねえだろ、夢ぐらい。
琴美　うん……そうだね。
店主　まあ、あんまり根つめるなよ。
琴美　うん。
店主　……琴。
琴美　どうしたの？
店主　ありがとうな。
琴美　何よ、改まって。
店主　最近、考えるんだよ。俺は諦めてたのかも知れねえなって。……お前はすごいな。さすがは我が娘だ
琴美　何言ってるのいまさら。
店主　この店始めたのは爺さんだったのは知ってるだろ？
琴美　うん。
店主　初めは店を継ぐのが嫌でなあ。そうだ、お父さん、昔は野球バカでな、子供の頃は野球選手になりたかったんだ。
琴美　今もじゃん。目指せ甲子園、でしょ。
店主　まあ今思うと本気でプロになれるとは思ってなかったんだろうな。でも、高校3年の夏、地区大会で負けた後は野球バカから野球をとったただのバカになっちゃってな。
琴美　出た、お父ちゃんの鉄板ネタ。
店主　うるせえ。
琴美　あはは。
店主　爺さんがな、読んだ本だったか、映画かなんかだったか、いいセリフがあったらしくてな。俺に話してくれたんだよ。「なりたかった自分になれなかった時に幸せを見つけられるかどうかでお前の人生の価値が決まるんだ」
琴美　……。
店主　幸せなんて言われても、その時は一体どれのことだか、わかんなくてな。爺さんの言

うままに料理学校行って、店を継いで、母ちゃんと出会って、お前が産まれて、俺は幸せになった。幸せに、なったた。

うん。

日常なんて同じことの繰り返しだって文句を言うヤツいるけど、毎日毎日幸せを繰り返すんだぜ、最強だろ？

あはは。うん。

……でもな、律子が死んで、俺は不幸せになった。あつけなかったなあ。病氣と闘ってたのは、半年位だったか。

そうなんだ。お母さん……。そうだったんだ。

毎日が幸せだったからこそ、不幸は深くてな。

うん。

赤ん坊だったお前を抱えて店に立って……。必死だった。泣いてばかりの手間がかかる子だったしな。

ごめんなさい。

いや、琴がいてくれたおかげで何とかやってこれたんだ。こいつの為にも頑張ろうってな。

お父さん……。

ああ……。そうか。

ん？

お前が店を守ろうとしてくれてる今は、間違いない幸せだ。ありがとうな。

こちらこそ、育ててくれてありがとう。

禍福は糾える縄の如し。

なに？

おう、急にしめっぽい話して悪かったな。仕事の続きしてくれ。俺は風呂行ってくる。

あ、うん。行ってらっしゃい。

お前の名前な。

ん？

「みなみ」か「琴美」で悩んだんだ。

わー。

宗ちゃん。南を甲子園に連れて行って。

ベター。

あんまり頑張りすぎるなよ。

うん。わかってるって。

店主ハケ、占い師入って来る。

琴美 すみません。もう閉店時間なんです。あ。

占い師 ごめんなさい。開いてたものだから。

琴美 えっと……お久しぶりです。

占い師 あら、覚えててくれた？

琴美 はい。夏にいらしてくれましたよね。

占い師 でも残念。もう閉めちゃうのかしら？

琴美 ごめんなさい。あ、でも大丈夫ですよ。わざわざ来ていただいたんですし。

占い師 ホントに？ありがとうございます。

琴美 おとうさーん。あれ？おとうさーん。

占い師 悪いわよ。またビールと煮物がいただければ十分よ。

琴美 すみません。

占い師 それにちよつとほら、二人でお話したかったし。

琴美 わかりました。じゃあ準備しますね。

店主顔を出して。

店主 ん？どうした？

琴美 ごめん。どこまで声が届くか試したかっただけ。

店主 はあ？何言ってるんだ？

琴美 ほらほら、そんな格好で風邪ひくよ。

店主 お前が呼んだんだろうが。

店主ぶつぶつとハケていく。

占い師 なんだか悪いことしちゃったかしら。

琴美 大丈夫ですよ。いつもあんな格好でうろろろしてます。

占い師 うふふ。

琴美、厨房へ。占い師は席へ。

占い師 お店、ずいぶん頑張ってるみたいね。

琴美 おかげさまで。何とか。

占い師

商才があるのね。

琴美

そんなことはないですよ。

占い師

あら。謙遜ね。

琴美

たまにそんな風に言われるんですけど、違うんですよ。ただ、周りの人に助けってもらって
るだけなんです。

占い師

カリスマ社長さんみたいな口ぶりじゃない。

琴美

やめてくださいよ。

占い師

メニューも素敵ね。

琴美

ありがとうございます。それ、川上君の力作なんですよ。

占い師

川上君？

琴美

あ、食堂のコンサルタントさんです。

占い師

そんな人が。

琴美

すごい子なんです。メニュー内容はコンセプトと、原価率、調理の手間、材料とかを
表にして全部見直したんです。さらにお店に置くそのメニュー表は広告であるべきだ
とかなんとか。

占い師

へえ、ホントにすごいのね。

琴美、出てきて。

琴美

お待たせしました。

占い師

ありがとうございます。

琴美

占いの方はどうですか？

占い師

まあまあね。当たったり、当たらなかったりよ。

琴美

えー、そんなに良いんですか？

占い師

いいのいいの。

琴美

あの……。

占い師

こないだの占いの話？

琴美

え？あ、はい……。あれ？なんでわかったんですか？

占い師

たまには当たる時もあるのよ。

琴美

すごいですね。

占い師

うそうそ。

琴美

え？

占い師

前にここに来た時には、お父さんじゃなくて、ボーイフレンドを選んだ方がいいわ
よって言ったじゃない。

琴美

ええ。

占い師 それなのにお店で頑張ってるんだから。そんなにバツが悪そうにしてたら占いなんかできなくてもわかるわよ。

琴美 あ、そっか……。

占い師 ねえ。

琴美 はい。

占い師 どうしてボーイフレンドの方を選ばなかったの？

琴美 お店が無くなっちゃうのがイヤだったんです。

占い師 ……。

琴美 このお店で産まれたからっていうか、えっと、うまく言えないんですけど、ここ、私達の場所なんです。

占い師 私達？

琴美 私が生まれてすぐにお母さんは病気で死んじゃったんですけど。

占い師 そう。

小学生の頃は、学校から帰ってきたらいつもお父さんはお店に出て、私はさみしくてお手伝いして。あ、兄弟いないんです。週末はいつもお店。……友達と遊ぶこともあったけど、たいていはここに座ってお絵描きしたり、宿題やったり。ずーっとここにいたんです。私とお父さん。

占い師 そう……看板娘ね。

琴美 看板になれるほど美人だったらよかったんですけどね。

占い師 何言ってるの、美人じゃない。

琴美 お世辞ありがとうございます。

占い師 とかいいつつLINEアイコン、自撮りでしょ？

琴美 え？違いますよ。何ですか？それ。

占い師 なんでもないわ。……でも、選ばれなかった彼氏さんは寂しいわね。

琴美 そうですよね。

占い師 後悔してるの？

琴美 ううん。してません。でも……やっぱり彼には申し訳なくて。

占い師、メガネを渡す。

琴美 え？

占い師 もう一回やってみない？

琴美 またですか？

占い師 結果が変わってるかもしれないわ。

琴美 はい。

琴美メガネをかけて

琴美

どうやるんでしたっけ？

占い師

自分の名前を言ってから占いたいものを言うのよ。

琴美

あ、思いだしました。えーっと、小松琴美 啓太君。

照明赤くなる。

琴美

あれ？

照明戻る。

占い師

もう一つも。

琴美

あ、そっか。……小松琴美、こまつ食堂。

照明青くなる。

琴美

やっぱり。この間と反対だ。

照明戻る。

占い師

あら、そうなの。

琴美

はい。この間とは色が逆で。啓太君の時には赤、お店の名前を言ったら青くなりました。

占い師

運命が変わったのかしらね。

琴美

そんな事あるんですね。

占い師

ふふふ。所詮占いだからね。

琴美

そんなもんなんですか？

琴美メガネを返す。

占い師

平日の朝、「今日のラッキーアイテムはジンギスカン」「ふむふむ。そっかー、じゃあ

琴美

今日の帰りはジンギスカンでも食べに行こうかな」っておい、無茶！

占い師

あはは。この辺じゃ食べられるところ、思いつきませんね。

占い師

結局、自分の信じた道を行くのが一番なのよ。

琴美 複雑ですね……。

占い師 どうして？

琴美 占ってくれた方に占いなんて信じなくてもいいのよって言われてるんですから。

占い師 あは。それもそうね。あ、私そろそろ帰るわね。今夜もごちそうさま。

琴美 え？もう、ですか。

占い師 おいくらかしら？

琴美 えーっと、700円になります。

占い師 自分の信じた道に行くのよ。琴美、さん。

琴美 ……はい。そうですね。ありがとうございました。またごひいきに。

占い師ハケる。琴美片づけていると店主入って来る。

店主 おう、誰か来てたのか？

琴美 あ、うん。お客さん。

店主 もう閉めましたって追いかえせば良かったじゃねえか。

琴美 知り合い、だったから。そう言えば美里とヤマさん遅いね。

店主 なんだ、まだ帰ってないのか。

琴美 うん。あ、お父さん、待ってる間、肩もんだげよっか。

店主 ああん？何だよ急に。

琴美 いいからそこ、座って。

ゆっくりと暗転。

▽9場

季節が過ぎ、春。こまつ食堂は店休日。店主、琴美、日向、長堀、川上、山崎夫妻、恩田が集まって「汝は人狼なりや」のゲームをしている。今回勝利したのは琴美と川上。みんなかなり酔っている。

恩田 恐ろしい夜が明け朝が来ました。昨晚の犠牲者は……美里さんです。

日向 あー。私かあー。

ミズキ いいヤツだったのにな。

長堀 いいヤツだったのになー。

恩田 この瞬間、人狼チームの勝利です！こまつ村は全員人狼に食べられてしまいました。

琴美 いえーい！

川上 やった！

健介 ほらー言った通りでしょ！なんで俺を追放したのさ！
日向 だって、監督が一番怪しそうだったもんだもん。
店主 見た目がな。
川上 見た目がね。
長堀 見た目がねえ。
ミズキ それは否定できないわね。
健介 人狼ゲーム関係ないじゃん！
ミズキ 監督残念。
健介 お前から1000本ノックだ！そこに並べ！
長堀 昭和かよ。
恩田 川上君上手だねえ。
日向 ホント。

長堀と健介、ビール瓶とコップを差し出しながら。

長堀 お前、正直者じゃなかったのか！
健介 ウソツキめ！
川上 正直者ですよ！その斧、どっちも僕のじゃありません。
長堀 じゃあ両方くれてやるわー。

長堀と健介、川上にビールを押しつける。
店主、奥へ

店主 俺、ちょっと休んでくるわ。適当にやっててくれ。
琴美 お父さん、大丈夫？
店主 ああ、疲れててちょっと眠いだけだ。
健介 一人減るのは厳しいよー。
店主 すまんすまん。

店主、ハケる。

ミズキ 休ませてあげなさいよ。
日向 おじさんずっと働きっぱなしだもんね。
川上 じゃあ人狼やめて違うゲームましようか。
健介 その前に、琴ちゃん、ビールもう一杯。
ミズキ 私も。

琴美

はーい。

琴美、奥へ

長堀

私も！

琴美

はいはい。あ、恩田さんは？

恩田

あ、じゃあ冷たいお茶おねがいでできるかな？

琴美

かしこまりましたー。

健介

恩田さんも飲みましょうよ。

ミズキ

飲めない人に飲ませるの止めなさいって言ってるでしょ。

健介

だって。

ミズキ

座んなさい。

健介

わかったよ。

日向

柚子、飲み過ぎてない？

長堀

見た目がね。

恩田

まあ、見た目は明らかに飲みすぎてるけどな。

日向

お水にしようか。

日向と恩田が介抱に入る。長堀、なにかをつぶやいている。

恩田

そうだね。琴美さん、お水ももらえる？

琴美

はい。あ、すみません。

琴美、お茶を持って恩田に手渡し、

琴美

お手間かけちゃって。お願いします。

恩田

平気平気。

琴美、また奥へ。

健介

よし、ウノやるぞ！

ミズキ

えー。

日向

えー。

健介

なんだよ。じゃあ桃鉄100年な！

日向

100年は無理だって。

ミズキ

ウノがいいです。

川上　　ウノってどんなルールでしたっけ？

健介　　ウソツキ君、知らんのか。

川上　　あんまりやったことなくて。

健介　　大丈夫大丈夫。君、頭いいからすぐ覚えるよ。

琴美　　はい。ビールおまたせ。

ミズキ　　最近の子はウノなんてやらないんじゃないの？

健介　　流行ったのはちよつと昔だったかあ。

川上　　修学旅行の時やったかも、です。

ミズキ　　なーんだ。友達いないだけか。

川上　　うわ、それ言います？

長堀、酩酊状態で立ち上がる。

長堀　　私も！

恩田　　大丈夫？

長堀　　私も友達いないんです！

日向　　柚子。

長堀　　なによ？

琴美　　お布団敷いてくるね。

日向　　お願い。

琴美ハケる。

恩田　　奥で休ませてもらおつか。

長堀　　うるさい。

日向　　柚子ってば。

長堀　　私には何にもないの。

日向　　どうしたの？

長堀　　いやなの。琴ばっかり可愛くて、琴ばっかりチャホヤされて、琴ばっかり……ずるい！

田舎で主婦やりたくて大学行ったわけじゃないのに。私なんて頭悪いし、マサル君
だってなじんでくれないし、美里だけがここで働いてるし。もうイヤだ！

最後の方は聞き取れない。長堀、座りこむ。

ミズキ　　この子泣き上戸だったのね。

長堀　　何よ！テレホンショッキングなんて全部やらせじやない！

健介　　は？
長堀　　コンビニのお弁当全部裏返してやる！
健介　　それはやめとけ。

しばしの間、突然恩田が叫ぶ。

恩田　　長堀さんはずるいなー！

日向　　え？

長堀　　どうして？

恩田　　夢があつてずるい！大好きな人と結婚しててずるい！こんな素敵な友達がそばにいてずるい！服のセンスが良くてずるい！みんなから好かれててずるい！

日向　　あはは。

川上　　長堀先輩センスいいかなあ……いてっ！

恩田　　みんな意外と似たようなもんだって。きつと。何かになりたくて、頑張つて、諦めて……僕はね、僕の人生も捨てたもんじゃやないぞって信じたことしたんだ。それって妥協じゃないすか？……

川上　　長堀さんは琴美さんの事が好きなんだね。

恩田　　……。

長堀　　寝てる。

日向　　青春だねえ。

健介　　寝かしてくるか。

日向　　手伝うよ。

健介　　ありがとうございます。

日向　　あら、鼻の下のばしちやつて。

ミズキ　　伸びてないだろが。生まれつきだよ。

健介　　あ、そうだった。

▽10場

健介と日向で長堀を連れて行く。残ったのはミズキと恩田、川上。すこしの沈黙。

ミズキ　　恩田君は新聞社に入りたかつたんだっけ？

恩田　　うん。良く覚えてたね。

川上　　どうしてですか？

ミズキ　　どうしてって？

川上　　どうして新聞社で働きたいって思ったんですか？

恩田 かつこよさそうに見えたからかな。

川上 じゃあ、その……今の恩田さんの仕事はやっぱり妥協してるって事ですか？

恩田 妥協だっていいじゃん。幸せになれるなら。でも、「挫折」とは違う。

川上 そんなもんなんでしょうか。

恩田 川上君はしてないの？妥協。

川上 ……わかりません。してるのかもしれませんが。でも、それって「諦め」じゃないですか。いや、言葉の定義について議論するつもりはないですけど……なんていうか、気に入らない？

ミズキ あ、いや、そんなことないです。

恩田 妥協していることがそんなにダメかな？妥協している人間は嫌い？妥協っていう言葉が良くないのかな。諦めるな、努力し続けろ、いつか夢をかなえる為に！

川上 ……。

恩田 聞きたくない？こんな話。

川上 いえ……。

ミズキ 久しぶりね。恩田君の幸せリテラシー理論。

恩田 あはは。お説教みたいになっちゃったね。やめやめ。

川上 みんな、そうやって育てられて、みんな、そういう教育を受けてきたんですよ。

場面が変わり川上の影2つ現われる。

川上 A わからん！こんなのがわかんないよ！

川上 B わからん！こんなのがわかんないよ！

川上 A 努力が足りないんだ。もつともつと勉強しなきゃ。

川上 B 才能が足りないんだ。ちゃんと自分に合った夢を見つけなきゃ。

川上 これは……。

川上 A おい、なにサボってるんだよ。

川上 B サボってんじゃないよ。方向転換してるんだよ。

川上 A 方向転換？逃げだろ？それ。

川上 B 逃げ？違うよ。計画の立て直しだよ。

川上 A そうやってすぐ諦めてきたからいつまで経ってもなりたい自分になれないんじゃないかな
いか。

川上 B ふっ。お前の言ってることは根性論だよ。誰もがイチローになれるわけじゃねーんだよ。

新たな影が2つ現われる。

影A 川上君、もう少し頑張らないと志望校合格は難しいな。
影B 川上君、努力は必ず報われるのよ。
影C 川上君、諦めたらそこで試合終了よ。
声 川上君、頑張つて！
声 川上君。
声 川上君。
声 川上君。

場面戻る。日向、帰つて来ている。

川上 わあああああ。
恩田 川上君。
日向 どうしたの？
恩田 大丈夫か？酒飲みすぎたか？
川上 あ……ごめんなさい。
ミズキ お水、いる？
川上 いえ、大丈夫です。
恩田 本当かよ。
川上 ええ。すみません。大丈夫ですから。

琴美、健介入って来て。

健介 そろそろ救急車来る頃だと思う。俺、外出てるわ。
琴美 私、毛布と着替え用意してきます。
ミズキ 保険証とお金もね。
琴美 はい。

健介と琴美ハケる。

川上 え？何言ってるんですか？大丈夫ですつて。
日向 馬鹿、あんたじゃないよ。おじさん。
川上 おじさん？
恩田 小松さん、様子見に行ったら脂汗かいて痛がってたつて。
川上 え？え？

暗転。

回想。琴美と片倉の会話。学生時代。

片倉 琴美ちゃんは？好みじゃなかった？
琴美 そんなことないよ。面白かったよ。
片倉 なら良かった。
琴美 あの子かわいかったな。あのミニスカートで歌って踊ってた子。
片倉 あー、あの子！かわいかったねー。
琴美 だよね！

片倉・琴美 「正義のビームでー」

琴美 私、生でお芝居見るの初めてだったからちよつと緊張しちゃった。あんなに近くでやるんだね。

片倉 たまには良いよね。

琴美 なんか食べていこうよ。

片倉 お。

琴美 お？

片倉 おー……なか空いたの思い出した。

琴美 なにそれ。

片倉 駅前でお好み焼き。どう？

琴美 いいねー

回想。琴美と片倉の会話。片倉との別離。

琴美 どうして。

片倉 ごめん。でも、今しかないかなって思って、

琴美 急過ぎるよ。

片倉 ……うん。

琴美 相談してくれたたっていいじゃん。

片倉 相談したよ。相談したじゃんか。

琴美 さみしいよ。

片倉 ……ごめん。

琴美 横浜なんか行かなくてもいいじゃん。ここでいいじゃん。そんな遠くに行っちゃった
ら、行っちゃったら……私、さみしいよ。

片倉 ……ごめん。

琴美 いやだよ。

片倉

……

琴美

行かないで。

片倉

……

琴美

私の事きらいになったの？

片倉

違うよ。

琴美

じゃあ何で？ずっとそばに居てくれるって約束したじゃん。

片倉

琴美……困らせないでよ。

琴美泣く。

片倉

泣かないで。

琴美

さみしいよ。啓ちゃんが遠くに行っちゃうのさみしい。

間。泣きやんで。

琴美

ごめんなさい。

片倉

ううん。

琴美

……私、自信ないよ。

片倉

毎月帰って来るから。

琴美

本当？

片倉

うん。

琴美

街できれいな人に、

片倉

そんなことないから。

琴美

……うん。

片倉

琴美もおいでよ。

琴美

……うん。

しばらくの間。照明が琴美だけになる。

店主（声）

琴――。

▽12場

場面変わり、片倉ハケ、健介、日向、川上入って来る。川上はパソコンで何かしている。

日向

琴、聞いている？

健介 琴美ちゃん？

あ、うん。

疲れてるんだよ。

少し休んでたら？

あー、ごめんなさい。大丈夫です。

あんたまで倒れたらどうするのよ。

平気平気。

あまり平気そうには見えないですけど。

大丈夫って言ってるでしょ。ほら。しゃっきーん！

ならいいけど……。

あーごめん。俺、そろそろ行くわ。

あ、すみません。

ありがとうございます。送っていただいて。

いつも助かります。

いえいえ。あ、宗ちゃん、退院いつって言ってたっけ？来週？

はい。

病院、顔出しとくか。

大丈夫ですよ。今日も病人扱いするなって騒いでました。

宗ちゃんらしいや。じゃあ帰ってきたら快気祝いにパーっとやろうぜ。

健介ハケる。

川上 パーっとやってたら倒れたんじゃないですか。

まあそう言わないの。

……私達のせいでもあるよ。

健康維持は経営者の責務ですよ。小松先輩も仕事だと思って体を大事にしてください

ね。

そうそう。過労から色々な病気の元になるんだよ。寝不足だって、

ごめんごめん。ね。やろ、リストアップしてくれたんでしょ？

……はい。わかりました。

川上、ディスプレイを見せながら。

日向 結構あるね。

川上 件数は多くても、条件的には厳しいと思います。

琴美 そうね。

日向　でも、聞いてみないとわからないでしょ？

川上　ええ……。

琴美　順番に電話してみましよう。

日向　じゃあ私は下から掛けてく。

川上　あ、だいたいロケーションが近い順にソートしてありますから。

日向　日本語で話してよ。

琴美　あはは。

川上　えっと……距離が近い順に並んでますから、上から順番にアプローチ……電話をかけるましよう。

日向　なるほど。了解。

川上　ここに番号振ってありますから、偶数は日向先輩、奇数番号は小松先輩お願いします。

琴美　わかった。

日向　あんたは？

川上　僕は……。

日向　サボる気でしょ。

川上　見ず知らずのお店に連絡して、コックさん貸してくださいって、どう考えても無理な話ですよ。

琴美　うん。わかってる。

川上　給食分は、その……そこまで味が問われるわけじゃないですから、僕らでなんとかありますけど、

日向　僕らって、あんた皿洗いすらまともにできないじゃない。

川上　日向先輩だって塩と砂糖間違えるスキルレベルじゃないですか。

日向　そんな漫画みたいなことしないわよ。

琴美　まあまあ。

川上　……やっぱりサプライズディナーの件は断りましようよ。残ってる予約は1件だけなんですから。いてっ。

琴美　ずいぶん前から楽しみにしてくださいってるお客様なのよ。エスタイル桜ヶ丘さんの取材のお話だって頂いてるし。

日向　可能性がゼロじゃないなら努力しようよ。

川上　努力……でも取材たつって肝心のシェフがいなかったら意味ないじゃないですか。いてっ。

日向　ただの取材じゃないの。

川上　じゃあなおさら、

日向　川上君。

川上　……難しいと思いますけどね。

琴美　　ごめんね。心が折れる交渉だけど、全力でやろうよ。

ミズキ袖に出て来て琴美の代わりに。

ミズキ

消化試合だなんて思ったらやってる選手達も、対戦相手も、観てる人も、スポンサーも、ビール売ってるおねえさんも、誰も幸せにならないんですよ。

ミズキハケる。

日向

なにそれ？

琴美

ビールが美味しくなるおまじない……かしら。

川上

……わかりました。じゃあ僕は県内の料理学校に連絡してみます。

琴美

ありがとう。

川上

い、いえ……。

琴美、電話をかけ始める。日向、川上と話しはじめる。

琴美

あ、はじめまして、私、市内にあります、こまつ食堂と申します。今お電話大丈夫ですか？ありがとうございます。ぶしつけなお願いで恐縮なのですが……。

▽13場

場面が変わり、長堀と恩田が話している。

長堀

あの、こないだはすみませんでした。

恩田

いいっていいって。気にしないで。

長堀

目が覚めたら琴んちの布団で寝てました。

恩田

ちゃんと覚えてる？

長堀

それが、あんまり……。

恩田

かなり飲んでたもんなあ。

長堀

私、何言っていました？あの子たちに聞いてもはぐらかされてるような感じで。

恩田

二人がうらやましいって。

長堀

え？そんなこと。

恩田

琴美さんが、可愛くて、恵まれてて。そんな彼女のそばに日向さんがいてずるって

長堀

言ってたよ。

長堀

わー……ホントですか？恥ずかしいなあ……。

恩田　いい友達だね。

長堀　……はい。あ、それで琴んちの特集記事の話ですけど、ダイナーの場所、今回はお客様のお宅じゃなくて、食堂でも大丈夫ですか？

恩田　構わないけど……あれ？ご自宅の取材OKじゃなかったっけ？

長堀　それがですね……

場面が変わり、宗佑が出てくる。

店主　だから、行ってくて言ってるだろが。ちようど退院の日なんだから。

琴美、日向 出てくる。

琴美　無理だつてば。しばらくは体の事だけ考えてつてお医者様も言つてたでしょう。

店主　病人扱いするんじゃないよ。俺が行つて飯作りやいいんだろ？

琴美　お父さん。

日向　レシピだけ教えてくれたら後はなんとかしますから。

店主　それだけでうまい飯が作れたら苦労しねえよ。

琴美　お父さん、お願い！お客様も大切だけど、お父さんはもつと大事なの。

店主　……。

琴美　お願い。

店主　……紙とペン持つてこい。

琴美　ありがとうございます。

日向　ありがとうございます。

琴美ハケる。日向が店主に何か話している。

場面が戻り日向、店主ハケる。

恩田　大変だね……。でもオーナーじゃないなら、誰が作るの？

長堀　皆で手分けして代わりのコックさん探してたんですけど、見つからなくて。さすがに。

恩田　探す？

長堀　はい。

恩田　すごいこと思いつくんだね。だ

長堀　簡単な料理なら私達でなんとかかります。でも、切る焼く煮る蒸す炒める、盛りつけ……やっぱりセンスというか、修行不足というか。

恩田　そんなに簡単にできたら苦労しないかあ。琴美さんは？ 作れないの？

長堀　まあ一番マシですかね。メニューの数は減らしましたが、食堂の料理はほとんど琴

恩田
が作ってますし。
それなら。

長堀
でも、西洋風のメニューは普段出しませんから。琴、お店閉めた後にレシピ見ながら練習してるみたいです。おじさんってああ見えてすごい人なんですわね。

恩田
そっか。

長堀
あ、それで、取材の件なんですけど……。

暗転。

▽14場

昼。琴美が厨房で料理をして、日向が給仕している。店は忙しいようだ。
しばらく営業中のこまつ食堂。やっと最後の客が帰る。

琴美
ありがとうございました。またごひいきに。

日向
ごひいきに。

琴美、玄関へ。のれんを下げに行く。

日向、椅子に座り込む

日向
疲れたー。

琴美
お疲れ様。今日はお客さん多かったね。

日向
明日は例のディナー&取材の日でしょ。今日くらいお店閉めちゃえば良かったのに。

琴美
祝日はわざわざ遠くから来てくださる方もいるから。

日向
琴、働き過ぎだよ。

琴美
平気平気。

日向
あんたまで倒れちゃったらどうするのよ。

琴美
あー……えへ……。

日向
ねえ。

琴美
うん？

日向
優秀なコンサルタントさんのおかげでお店も軌道に乗ってきたじゃない。

琴美
そうね。おかげさまで。

日向
……私も自分の夢、見つけてみようかな。

琴美
え？

日向
がむしやらに頑張ってるみんなを見てたら私もって考えるようになったの。

琴美
美里。

日向 都会に出たら夢中になれる何かがあるんじゃないかって勘違いしてたのかな。いつかって思ってたたらこんな歳になっちゃった。

……。

日向 琴美 私、親がダメって言ったことは考えちゃダメなんだってずーっと思ってた気がするなあ。

そっか。

日向 琴美 ウチ、琴んちのおじさんみたいに物分かりよくないし。

そうかなあ。

日向 琴美 もう少し落ち着いたらどこに住むのか、どんな仕事をしたいのか、どんなおばさんになりたいのか……色々ちゃんと考えてみようかなって。ごめんね。

ううん。……あ、親友の決意表明だもん。応援すべきところよね。さみしいけど。

日向 琴美 ごめん。代わりの人が見つかるまでは頑張るから。

琴美 ありがとう。

日向 琴美 あー……その人、料理できるといいね。

琴美 美里だって頑張ってくれてるじゃない。

日向 琴美 今日も魚焼き過ぎちゃったけどね。

琴美 そうでした。

日向 琴美 あはは……。よし、じゃあレジしめちゃってよ。私、注文書書くね。

琴美 お願い。明日と明後日の分ね。

日向 琴美 わかってるって。あれ？

琴美 あ、その終わっちゃったかも。

日向 琴美 そうだったそうだった。

琴美 多分、納戸に新しい帳面あると思うよ。

日向 琴美 了解。

日向、立ち上がり奥へ。琴美、しばらくして机に突っ伏して寝てしまう。

占い師入ってくる。

占い師 こんばんは……。

寝ている事に気づいて占い師、奥へ。すれ違いで日向が出てきて寝ている琴美に気付き、また奥へ。ほどなくして毛布を持った日向と占い師が一緒に帰ってくる。日向と一緒にゆっくりと琴美に毛布をかける。

琴美

啓ちゃん？

二人、微笑んでハケていく。
暗転。

場面が変わり、朝。琴美はそのまま寝てしまった様子。目覚め、飛び起きる。

琴美 寝ちゃった……。いけない！白鷺館の！

日向 おはよ。

琴美 え？美里？

日向 まだ時間あるから少しでも布団で寝ておいでよ。

琴美 え？でも、仕込みもまだ、

奥からミズキが給食の入った箱を持って出てくる。

ミズキ 今日の分はやっといたよ。

琴美 山崎さん！

同じく川上が出てくる。

川上 まるで山崎さん一人で全部やったみたいな言い方じゃないですか。

長堀が顔をのぞかせる。

長堀 あんたは皿割ってただけでしょ。

琴美 川上君、柚子！

ミズキ 運ぶ時には落とさないですよ。はい。

川上 落とすわけじゃないじゃないですか。(といいながら落としそうになる)

長堀以外ストップモーション。

長堀 強く生きる。

場、動き出す。玄関から健介入って来て箱を受け取る。

健介 じゃあ行こうか。

日向 はい。

健介 帰りに宗ちゃん拾ってくるから。退院、何時だっけ？

琴美

え？あ、えっと……。

日向

11時に迎えに行くって話になってます。

健介

ほい。了解。

琴美

すみません。何から何まで。ありがとうございます。

日向

琴、お風呂だけでも入ったら？

琴美

あ……うん。そうね。

健介

心配しないで。しんどい時は俺たちを頼ってよ。

ミズキ

そうそう。

健介

おーい、後頼んだよ。

日向

お願いします。

ミズキ

はいよー。

琴美

ありがとうございます……ございます。

健介、日向ハケる。

▽15場

場面が変わる。長堀が電話しながら袖に出てくる。日向が少し遅れてついて出てくる。

長堀

もしもし、長堀です。あ、うん。間にあいそう？

日向

死ぬ気で来なさい。

長堀

そっか……ギリギリね。……覚悟、できた？……根性無し。

日向

え？死ぬって？

長堀

ギリ死なない程度に急ぐって。

日向

妥当な覚悟ね。

長堀

じゃあ気をつけて来てね。死なないように。

日向

どっちだよ。

長堀

はい。また後で。

長堀、電話切り、場面は変わる。

恩田が宗佑と琴美にインタビューしている。

琴美

えっと、思いついたのは私です。特別な日をいつもとちょっと違う形で思い出に残すのって素敵だなと思って。

店主

儲けは全然無かったけどな。

川上

元々は枠にとらわれない発想で色々なビジネスをやってみようとした、その一環だっ

たんです。でも、
失敗でした。

素晴らしいアイデアだと思いますけど。

お父さんが倒れちゃうような環境じゃやってる意味ないですから。

琴。

ごめんなさい。私やっと目が覚めました

お、おう。まあアレだ。俺が勝手に張り切っただけだ。

僕が未熟で労務面に対する認識が甘かったんです。

今後はそういった改善と……では、出張ディナーの事業からは撤退されるんですか？

はい。皆で話し合っただけです。今日を最後にしようと思います。

そうですか。

あ、今日はおお客様のご意向で出張じゃなくなっちゃいましたから、ただの貸し切りで

すね。

お客様の？

ええ、こちらでっていう方もたまにいらっしゃいました。えっと……。

琴美、時計を気にする。

恩田 あ、時間そろそろですよね。じゃあインタビューは一旦終わりました。後はディナーの後でまたちよつとお話聞かせてください。

琴美 すみません。

インタビューは終わる。川上が少し外を気にする。

川上 山崎さんが駅まで迎えに行ってくれてますけど、少し遅れるって連絡があったみたい
です。さつき。

琴美 ありがとう。

店主 野球の道具が邪魔で乗り切れなくなってるじゃねえのか。

恩田 どんなサプライズか聞いてもいいですか？

琴美 それが……オーダーを変えていただいたみたいで。

店主 いつも通り営業して、いつもの飯を出してくれて。

恩田 そうなんですな。

店主 ちようどよかった。病み上がりだしな。

恩田 じゃあサプライズは無し？

琴美 いえ、あ、……男性の方が彼女にプロポーズするらしいです。

恩田 いいじゃないですか。

琴美　でも盛り上げてくれとしか。具体的にはその……。
川上　日向先輩達がちゃんと段取りしてますから。小松先輩は最高の料理作って下さい。
店主　もう下ごしらえまで終わってるだろ。琴は休んでろ。
琴美　お父さん。
恩田　小松さん、きょう退院されてきたんですよね？
店主　そうそう。体がなまってな。仕事したくてしたくてたまんねえよ。
琴美　休んでろって言われても。

▽16場

日向、長堀入ってくる

長堀　琴、ヤマさんもう上瀬川のバスターミナル過ぎたって。
日向　もうじきだよ。
恩田　じゃあ、後でまた。ありがとうございました。
琴美　はい。ありがとうございました。

皆、準備に入り、テーブルの上にはグラスが2つ、テーブルキャンドルが置かれる。
琴美は料理を作るつもりで厨房に入るが追い出される。
その後、日向にから着火装置を渡されつつ座らされてしかたなくキャンドルをつける。

片倉、健介、ミズキ入ってくる。

片倉　琴美。
琴美　啓ちゃん？
片倉　遅れてごめん。
琴美　え？どういうこと？

皆が徐々に集まってくる。見守る中、片倉が向かいの席に着く。占い師入ってくる。
店主が飲み物をグラスに注ぐ。

片倉　今日の予約、俺だったんだ。
琴美　え？でも。
片倉　あのさ……俺、今の仕事辞めてこっちに帰ってくる。だから……。あ、ごめん。いきなり。
琴美　ううん。でも、えっと、確かにちよつと急で。

片倉 ああ、うん、そうだよ。で、帰ってきたら、その……。

日向 啓太君、男だろ！

長堀 ちゃんと言いなさいよ！

健介 頑張れ！

片倉、琴美の手を取り。

片倉 俺とずっと一緒にいてくれないか？

歓声。

琴美 はい。

音楽。拍手。川上はちよつと複雑な顔でミズキに慰められている。
店主と占い師が並んでテーブルサイドにやってくる。

店主・占い師 ご注文は？

場面が青く染まっていき暗転。

▽17場

別の日。

山崎夫妻と長堀、日向がテーブルで話している。占い師が離れたテーブルにいる。

日向 え？ヤマさんケガしたんですか？

店主 そんな大げさなもんじゃねえよ。

ミズキ 本気でボール取りに行った証拠、いわば勳章みたいなものよ。

健介 ちよつと擦りむいただけだって。

長堀 よきかなよきかな。

日向 なら良いですけど。

健介 酒飲んでたら治っちまうよ。な。琴ちゃん、ビールもう一杯。

ミズキ 私も。

琴美顔だけ出して

琴美 はーい。

店主 あんまり飲みすぎるなよ。

健介 平気平気

長堀 あ、じゃあ私も。

日向 柚子はもうお茶かお水にしておきなさい。

長堀 何だよ。

日向 何でも。

長堀 はーい。

琴美 出てきて

琴美 はい。ビールお待たせしました。

占い師に気付く。

店主 琴、もう閉めてきてくれ。

琴美 え？あ、うん。

健介 啓太君も来いよ。

片倉 はい。ありがとうございます。

店主 おう、自分の分は持ってこいよ。

ミズキ 旦那様もサマになってきたわね。

店主 味はまだただけどな。

琴美 ハケる。

片倉 厨房から出て来て席へ。

健介 それにしても宗ちゃん、よくすんなりOKしたな。

ミズキ そうそう。

店主 ん？

健介 いや、ほら、一発殴らせろ！みたいな。

長堀 親父としてーんーんー♪

健介 最初っからこっちに戻ってくるって話してたの？宗ちゃんには。

片倉 いえ。

店主 ばーか。住むとこなんて関係ねえ。俺はヤマと違って人間ができてんだ。

健介 へー。

店主

あ、でもな……

琴美戻ってくる。

店主

あの時、そばにアイツがいた感じがしたんだ。

日向

アイツ？

店主

死んだ律子だな。一緒に琴美の幸せを見届けましょう。って言ってるみたいなの……。

健介

ふーん。

店主

あれ？どこかで見たことあるなって感じがしてき。夢で見たのと同じだなんて。

琴美・片倉

え？

片倉

それって……。

琴美

どんな夢だったの？

店主

ん？他愛もない夢だよ。

琴美

教えて。

店主

あいつの好きだった煮物をつまみに二人でビール飲んでてな。琴もいつか嫁に行くの
かなってそんな話をしてた気がする。

琴美の視線は占い師に。

店主

そこにこいつが来てき。

琴美

おかあ……さん？

占い師、店主のテーブルのそばまで来てにっこり笑う。琴美以外存在に気付かない。

健介

そっか。

日向

不思議な話ね。

ミズキ

ちよつとロマンチックじゃない。

片倉

僕はその話好きです！

日向

啓太君ってそういうの信じないんじゃないかなかったっけ？

片倉

僕も、夢を見たんです。

明りが変わり、琴美と占い師2人の世界になる。

琴美

お母さんなの？

占い師

うふふ。私こういうの大好物。

琴美

うそ。

占い師 ありきたりだけど、悪くない。でしょ？

 出口が明るく光り、占い師ハケて行く。

琴美 待って、行かないで。

 占い師につこり笑って

占い師 琴美、違うでしょ。

琴美 ……うん。

 琴美、姿勢を正し、深呼吸して

琴美 ありがとうございます。またごひいきに。

終